

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470501572		
法人名	社会福祉法人 本城福祉会		
事業所名	グループホーム セラピス		
所在地 (電話番号)	呉市柝原町字中倉150-2		(電話) 0823-30-5150
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成21年1月16日	評価確定日	平成21年2月16日

## 【情報提供票より】21年1月4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 2 人, 非常勤 13 人, 常勤換算 8.9	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	平屋建て	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000円	その他の経費(月額)	18,000(21,000) 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	有りの場合 償却の有無	有 3年
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 90.4 歳	最低 83 歳	最高 99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	サンクリニック、グレース歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな自然に囲まれた環境に立地する。近くには母体関連の幼稚園、保育園などがある。社会福祉法人本城福祉会により平成15年11月に開設された1ユニットのグループホームである。敷地内には同法人の特養老人ホーム、デイケアセンターがあり、介護施設間で日常的な医療相談、様々な面でのバックアップ体制、デイサービスの利用など効果的な協力関係が保たれている。職員は『お互いに支えあいながら、自由に楽しく、わが家のように過ごす』を運営理念に掲げ、利用者から学ぶ姿勢を大切に愛情のこもった言葉かけを行い、いつも笑顔の絶えないホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や目的を理解されており、改善課題については、よく話し合い、サービスの質の向上に活かされている。「運営推進会議の早期実現」と「災害訓練の実施」を前回評価からの継続改善課題とし、全職員による積極的な取り組みをしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の実施に当たっては、管理者・リーダーが行った評価を他の職員が確認する形となっている。全職員が最初から評価に参加し、全員で検討し、問題点の掘り起こしを行った上で自己評価がなされるよう期待する。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>別の形での、地域の方々とのコミュニケーションは、はかられているが、ホームとしての運営推進会議は実施されていない。しかし、今年度中の実現に向け、包括センター相談員や民生委員の話し合いは進んでおり、運営推進会議を行う準備は前向きに進んでいる。他の成功例なども参考にしながらサービスの向上に活かせる運営推進会議の早期実現に向け、更に積極的な取り組みを期待したい。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時に日頃の暮らしぶりや健康状態を伝え、情報交換や意見交換が行われている。苦情相談窓口を重要事項説明書にホーム直接、公的機関別に明記し充分説明されている。苦情等あった場合は、その都度管理者、理事長に報告し話し合いの上解決している。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の行事参加や祭り、敬老会行事など積極的に参加している。敷地内の幼稚園、保育園の園児、地元の小学生の劇など、慰問があり利用者との触れ合い、交流が深まるよう心がけている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の運営理念『お互いに支えあいながら、自由に楽しく、我が家のように過ごす』をつくり、利用者が安心して、地域に愛され、地域と共に暮らせるよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関や事務所内に掲示してある。日常のケア活動を通じ、事あるごとに話し合わせ職員間の共有化が、はかられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事参加や祭り、敬老会行事など積極的に参加している。また民生委員、地域女性会ボランティア訪問、幼稚園保育園の園児や地元の小学生の劇など慰問があり、利用者との触れ合い、交流が深まるよう心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的や意義を理解されていて、評価の結果を具体的な改善に向けて取り組んでいる。自己評価の実施に当たっては、管理者・リーダーが行った評価を他の職員が確認する形となっている。		評価に当たっては管理者、職員が全員参加して問題点があれば、検討し改善に向けて取り組まれることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	別の形での、地域の方々とのコミュニケーションは、はかられているが、ホームとしての運営推進会議は実施されていない。しかし、今年度中の実現に向け、包括センター相談員や民生委員の話し合いは進んでおり、運営推進会議を行う準備は前向きに進んでいる。	○	2ヶ月に1回の開催を目標に、他の成功例なども参考にしながらサービスの向上に活かせる運営推進会議の早期実現に向け、更に積極的な取り組みを期待したい。

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設内に地域相談センターを受け入れており地域包括センター相談員や民生委員などによる交流が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に日頃の暮らしぶりや健康状態を伝え、情報交換や意見交換ができるよう心がけている。金銭管理は毎月出納報告をしている。職員の異動については面会時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を重要事項説明書にホーム直接、公的機関別に明記し充分説明されている。苦情等あった場合は、その都度管理者、理事長に報告し話し合いの上解決している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで特に問題を生じたケースはない。職員の異動や離職があった場合などは、情報伝達に努めたり、言葉がけに注意を払い、ダメージを最小限に抑えるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃の業務を行いながらの外部研修は難しい。法人内での研修は行われており、管理者は外部研修にも参加している。また、日常ケア活動を通じてのOJTに力を入れている。		職員を外部研修に積極的に参加させるなど、更なる職員育成の充実を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域相談センターを介しての、同業者との交流は行われているが、直接の交流は行われていない。グループ内他施設との交流を通して、介護技術の向上につながる取り組みをしている。		同業者との情報交換や勉強会を通じて交流を図り、サービスの質の向上に役立つ取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の自宅訪問やホーム見学、利用者が不安にならぬ様、今までの生活スタイルを大切にし居室には自宅で使い慣れたものを置くなど、利用者のペースに合わせながら常に見守り、声かけを行い、無理なく馴染める環境づくりを工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側と言う意識を持たず、時には家族、ある時には人生の先輩として、お互い支え合いながら一緒に楽しく過ごせる関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から、生活歴や希望、意向を聞くとともに、日常生活での会話や表情、行動などから希望や意向の把握に努め、思いに沿ったケアができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の一人ひとりが、よりよい暮らしができるケアのあり方について、本人、家族、関係者と話し合い、それぞれの意見や要望、アイデアを取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1回の定期的な見直しの他、状態の変化時には、関係者で話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に応じ、プライベートな外出、外泊、特別な受診のための送迎など、可能な限り柔軟に対応し、支援している。また、併設サービスも活用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診は継続して行えるように支援するとともに、常に提携医療機関と連絡をとり適切な医療が得られるよう支援を行っている。また、併設の特養老人ホームの看護師による医療支援も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、ホームとして基本方針を決め、全職員で取り組んでいる。家族や主治医、関係者に対策について話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮しながら言葉かけや、対応を行っている。また、個人情報の漏洩防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合などを優先せず、利用者一人ひとりのペース、スタイルに合わせて、希望に沿った生活が出来るよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が、同じテーブルを囲み楽しく食事をしている。見回りやサポートが、さりげなく行われている。食後の洗い物、テーブル拭きなど片付けを一緒に行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ本人の希望に合わせて、くつろいで入浴できるように支援している。入浴を嫌がる方には、色々工夫しながら平均週3回は入浴してもらえるよう努力している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で利用者が充実感を持って過ごす事が出来るように、配膳の手伝い、食後の片付け、洗濯物たたみなど役割や出番を用意している。また、月に1回のおやつ作りや季節毎の行事を実施して気晴らしになるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩や買い物、季節行事、併設デイサービスへの外出など、日常的に外出出来るよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの、弊害を理解されており、日中は目配り気配りを心がけ、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練は、まだ行われていない。	○	年2回以上、利用者を含む全員による防災訓練の実施を期待したい。また、災害発生時の地域支援体制の確立、万一の場合に備えて地域の人々の協力が得られる体制づくりも望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養士により、計算された食事となっている。毎食の摂取量や水分量は把握されており、一人ひとりの状態や体力に応じた調理を行い、食事量の少ない方には主治医と相談しながら栄養剤補充も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂には視界を遮るものがなく開放的で広く、自由に出入り出来るウッドデッキテラスがあり、そこにテーブルや椅子が置かれ屋外でも、お茶やおやつを楽しむ事に利用されている。天窓からの自然光を採り入れ、季節の飾りや生花も飾られ、家庭的で居心地良く過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出のある生活用品を持ち込み、利用者の生活スタイルに合った居室づくりがされており、それぞれにとって居心地良く過ごせるよう工夫がされている。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念の基づく運営</b>				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	四季の行事など、自治会の方々に参加していただき、地域の中で暮らし続けられるよう、支えている。	○	今後も地域の方々との交流を大切にしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	その時の状況、その方にあった介護を、施設の理念を重ねあわせ、管理者、職員で話合っ取組んでいる。	○	これまで同様、「お互いが支え合いながら自由に楽しく我が家のように過ごす」理念を念頭に日々
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	行事や地域の方々たちとの交流の様子を、理念を考慮しながら家族に伝えている。		
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	施設の回りには野菜、花など植え、テラスにはテーブル、椅子を置き、気軽に立ち寄って頂けるよう努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会の行事、祭り敬老の日、又は、小学生の劇など慰問があり、常に地域の方々との交流することに努めている。	○	外出が難しく慰問が多いができるだけ地元の人々と交流に努めたい。



	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	勤務している職員個々が地域で相談を受けることがあり、身につけている知識、技術などで役立てている。職員個々の対応等難しい場合は、職員間で話し合いをしている。	○	これからも地域の方々の暮らしに役立つよう職員間話し合いながら、知識、技術を高めていきたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部からの視点で評価して頂き、気がつく事が多く、評価の意義を理解し、改善に取り組んでいる。	○	自己評価、外部評価の意義を理解し一つづつ改善に努めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を設置できていない。	○	早期に設置できるよう検討していく。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所のほうから積極的な連携はとっていない。	○	問3-8と併せ連携を蜜にしていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者は制度について学んではいるが、職員までは周知していない。これまで制度が必要な方いなかった。	○	職員も学ぶ機会を持ち知識を身につける様にしていく。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事件、事故など耳にする事が、多々あるが、その都度、職員間で話し合い、見過ごされない様注意し防止に努めている。	○	日々の業務の中で話し合っているが、更に勉強会など機会を設け防止につとめたい。
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約の際は利用者、家族に十分説明し、不安、疑問点があれば話し合いし、理解、納得を待っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の不満・苦情・意見はすぐに理事長に報告、相談し解決するよう努めている。職員も話し合いをし反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	金銭管理は毎月家族に報告し、健康状態、日々の生活状態など、家族に連絡している。又、職員の異動などあれば、面会の折、説明している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の意見、不満、苦情など、その都度、理事長に報告し話し合う機会を設けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者、管理者は常に、連絡を取り合い、意見など話し合いを行い反映させている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者、家族の要望に対応できるよう職員の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	理事長を含め、管理者、職員で話し合い離職を最小限に抑える努力はしているが、離職する場合は利用者家族へ説明している。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	業務を行いながらの外部研修は、難しく、法人内で研修を行なっている。	○	管理者、職員の研修の機会を確保し、質の向上に役立てたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流は行なっていない。母体施設で介護技術の向上に役立てたい。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者、職員は運営者と気軽に意見交換ができストレス軽減につとめている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	管理者は運営者に些細な事でも常に報告している。職員が向上心を持ち、働きやすい様努めている。	○	職員も気持ちのゆとりを持ち利用者と接し、向上心を持ち働ける
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	悩み事、不安な事など、ゆっくり聞き、判りやすい言葉で会話をしている。難聴の場合いなど筆談を行い、理解できるようつとめている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族等困っていること、不安なこと、ゆっくりと話す機会を設けている。早めに解決できるよう努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族に「その時」の一番良い方法を理事長、職員、本人、家族と話し合っって対応できるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	少しずつ馴染める様、声かけ、見守りをしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話の中で近隣者との付き合い方、思いやりなど、現在では失われつつあるやさしさなど、学ぶ事多く利用者、職員一層支えあって生活している。	○	「人間の尊厳」をいつも頭の中に入れ人生を学び支え合って、今まで以上に良い関係を築いていきたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	今の状況を伝える一方、その方の生活暦など再確認し、家族と共に笑ったり涙したり家族、職員一体となり支え合っている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人、家族とのよりよい関係が、保たれる様パイプ役を、務めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親戚、友人、知人への手紙、電話等の連絡を支援し馴染みの関係が途切れない様になっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を把握している。声がけし、これまで以上に楽しく過ごせる様支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	今まで自宅で復帰された方はいないが、母体施設へ入所の家族には、面会時立ち寄って頂いている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その時の状況で希望、意向に耳を傾け、その人らしく暮らせる様、努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	相談の時点であらかじめ生活歴は情報は得ている。また、サービス利用、環境等も把握する様努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その日行動、言動を通じて把握するよう努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日、時間によってケアのあり方の違いがある中で、本人、家族と話、介護計画を作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化があった場合、本人、家族、関係者と話し合い、計画を新たに作成している。ひび		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の変化など気づきをその都度、個別に記録し、全職員が読み、情報を共有し、計画の見直し、介護方法の変更時に、対応できるようにしている。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その時の状況、要望等に応じて、事業所として柔軟な支援をしている。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、地域の自治会、ボランティア、併設の幼稚園、保育所の園児達、近隣の小学校の児童との交流を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	施設のケアマネ、地域支援センターの職員との連携を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域相談センターとは連絡を取り、必要に応じて、虐待、権利擁護について情報は得ている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	主治医と連絡を取りながら、適切な医療が受けられている様、協力医と相談し、支援を行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医より、必要に応じて専門医への、受診できる体制はとれたいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	母体施設の看護師に相談しながら、日常の健康管理、医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先のソーシャルワーカーと連絡を取りながら、主治医に相談し、早期に退院し、入院前の生活に戻れる様努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入所時に家族を含め話し合い、重度化や終末期の対応について合意形成できている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入所時の合意形成に基づき、重度化された場合や終末期を迎えられた時は特別養護老人ホームの協力を得て対応している。		



	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	これまで特養、他のグループホームに移動されたケースはあったが、スムーズに移り住む事ができている。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	同じ目線での会話、丁寧な言葉使いに努め、プライバシーの確保に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自分の胸の内を表現できるよう、判りやすい言葉での会話を努め、自己決定できるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その時の状況、その方に合ったペースを大切にしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自室洗面台に鏡があり、化粧品、ブラシ等身だしなみに気をつけている。本人が希望している美容院はないが、月一度、訪問の美容院を利用している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も同じテーブルで食事をし、会話を楽しんでいる。食後は洗い物、テーブル拭きなど片付けを一緒にしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みのお菓子、果物等、楽しみながら食せる様、支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	「排泄状況」を記録し、個々の排泄パターンを理解することで、失敗を減らし、気持ち良く生活できるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望に合わせて入浴している。ゆっくりと入浴出来る様、その方に合った方法で行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	気持ち良く休息、安眠できるよう寝具を清潔に保つ様、支援している。日中、レクなどに参加することで、夜間快眠できる様に支援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	生活歴を生かし、家事の役割や折り紙等、生き生きとした生活が出来るよう支援している。	○	今後も生き生きとした日々を過ごせる様「喜怒哀楽」を共に過ごせる様支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持ち、スーパーに買い物に出掛け、自分で支払いを行っている。	○	体調・季節に合わせ、出掛ける機会を増やしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	母体施設のデイルームに、地域支援・自治体のボランティアなど、デイサービスに出掛けたり散歩したり、テラスの花の水やりを行ったりしている。	○	時には、10時のおやつも屋外で頂き、外の空気・四季の風景を観たり感じたり、これからも更なる支援をしていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	花見・新緑・紅葉等、四季折々の風景を観たり、買い物に出掛けたり、個人では法事など出掛けている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話は使用している。手紙のやり取りも行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族・知人・友人等訪問時には、居間・自室でゆっくりお茶を飲みながら過ごせるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	今まで身体拘束を行ってないか。	○	これからも身体拘束は行わないように、取組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居間など職員が見守りを行い、目配り・気配りを行っているが、テラスなど自由に出入りが出来るようにし、玄関には施錠はしていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居間全体を見渡せる間取りになっている。また、常に見守りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	鋏・危険物は、本人・家族の了解を得て預かり、必要な時は職員が見守りをしながら、使用出来るようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々に合った介助・支援を行っている。常に職員が話し合い、事故防止に取り組んでいる。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	母体施設の看護師に相談・指導を受けている。	○	定期的に勉強会を開き、緊急時の対応が出来るようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災訓練は行っていない。	○	早急に訓練を行い、緊急時に備えたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居の際、起こりうるリスクについて家族に説明し、理解して頂いている。その上でその人らしい生活出来るよう支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日同じ状況でバイタルチェックを行い、異変があれば即対応できるよう、母体施設の看護師に連絡している。職員にも情報を共有し対応している。	○	これまで以上に、体調の変化・異変の発見に努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの服用状況について、職員が理解している。薬の変更があれば文章で職員に伝えている。薬の説明書を常時確認出来るようにしている。	○	母体施設の看護師により、薬の作用・併用の危険性について勉強会を開催したい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	乳製品の摂取・水分補給など注意している。薬に頼らない様、心掛けている。又、決まった時間にトイレに行き排便を促すよう取り組んでいる。	○	これからも水分補給に・食事・生活習慣に気をつけ、服薬せず排便を促したい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後・眠前には口腔ケアの声掛け実践している。出来ない方は職員と一緒にいる。口腔内に異常があった場合、家族に連絡し訪問歯科医と相談し処置を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体調に配慮しながら食事を把握している。食事量の少ない方には、主治医と相談しながら栄養剤の摂取を行い、普通食の摂取の難しい方は、ミキサー食やトロメリンを使用している。	○	排尿量を見極めながら水分補給を行い、記録に取っている。これからも健康管理を行っていききたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手摺り・椅子等毎日消毒し、入居者・職員は手洗い・消毒を施行している。	○	これからも気を引き締めて、感染症予防に取り組みたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	手洗いし、清潔に努めている。包丁・まな板など使用したその都度、消毒を行っている。	○	食中毒予防は常に気をつけているが、これからも十分気をつけていきたい。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには四季の花を植え、近隣の方々に親しみやすく工夫し、玄関前はゆるやかなスロープになっており、車・車椅子でも出入りしやすい様に工夫している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ブラインド・カーテン等を利用し、居心地良く過ごせる様にしている。又、四季折々の花・飾り物など季節感を楽しめる様、配慮している。	○	季節感が感じられるよう歌を歌ったり、装飾したり、心地よく過ごせる様にしていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った利用者同士で話が出る様、ソファの配置に気を配ったり、自由に居場所が変えられる様、工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い慣れた物・好みの物を置き、心地良く過ごせる様にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日空気の入替えを行い、状況を考慮しつつ、温度調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺り・滑り止めマットを使用し、安全に生活出来る様、工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自分で出来る事は、職員の見守りの中で自分で行い、自立へ向けての支援を行っている。	○	今後も残在能力を生かし、必要移譲に順序しないようにしていく。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるよ うに活かしている。	居間からドアを開放し、テラスでお茶を楽し んだり、建物の周囲を散歩したりしている。	○	家庭菜園に力を入れ、収穫した野菜を調 理し、楽しみたい。



V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない（運営推進会議がない）
98	職員は、生き生きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※           は、外部評価との共通項目